

30年産米の品質を共有 稲作部会が検討会

12月8日(土)、JA越後おぢや稲作部会は、グリーンパークで「平成30年度稲作検討会」を開きました。

部会員やJA役職員ら38人が参加し、30年産米の品質や需要のある米づくりについて情報を共有しました。

同部会の横田雅夫部会長は「検討会を米づくりのレベルアップに生かしてほしい。部会員が地域のリーダーとなり、頑張つていこう」と呼び掛けました。

30年産の品質について米穀販売課の大平一彰係長は「生育期前半の高温・無降雨、後半の日照不足と、激変する気象の中で基本技術の徹底と適切な水管理を行い品質低下を最小限に抑えることができた。次年度に向けて土



▲米づくりのレベルアップを呼び掛ける横田部会長

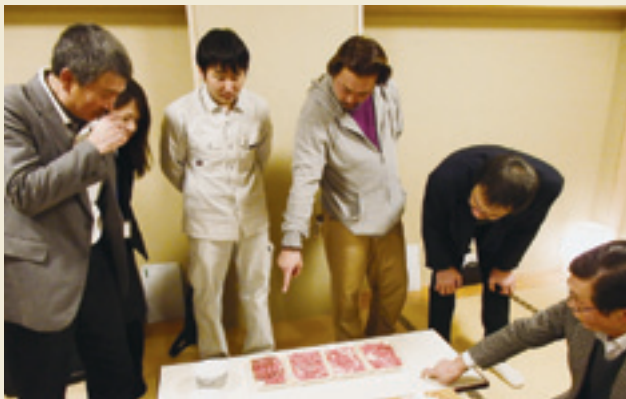
づくりを行い需要のある米づくりを行っていただきたい」と説明しました。

同部会は部会員108人で組織し、コシヒカリを中心に新之助や酒米、あきだわらなどに取り組んでいきます。

和田一男さん最優秀賞 枝肉研究会表彰

12月11日(火)、JA越後おぢや管内の肉牛肥育農家で組織する「小千谷肉牛部会」は、部会の全体集会をグリーンパークで開きました。部会員ら11人が参加し、飼料情勢や疾病対策などの情報を共有しました。

枝肉研究会の表彰も行的、最優秀賞に上片貝の和田一男さんが輝きました。



▲肉質やサシの入り方などを確認する参加者

集会では、NOSA1新潟県の広井信人獣医師が国外で口蹄疫が発生していることを説明。「牛舎の周りに石灰をまくなどして対策してほしい」と呼び掛けました。

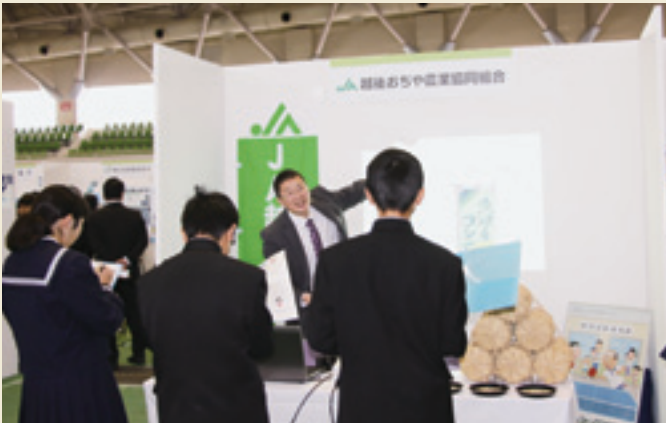
JA東日本くみあい飼料新潟営業所の志田茂雄所長は、出品牛12頭の印象を「枝肉の重量は良いが、

ロースは平均もしくは平均以下の牛も見られた」と講評。「各部位均等にボリュームを持たせるためには、肥育ステージにあった適量をしっかりと食べさせることが大切だ」と強調しました。

部会員が生産した牛肉の食味比較も行い、肉質やサシの入り方などを確認しました。

おぢやしごと未来塾 生徒に事業を紹介

12月11日(火)、JA越後おぢやは、小千谷市の企業や産業などをPRするイベント「おぢやしごと未来塾」に参加し、市内の中学生に、JAの事業や職員の仕事、地域の特産品などを伝えました。JAや農業に理解を深めてもらうことが目的です。イベントは小千



▲生徒に地域の農業を紹介するJA職員

谷市などが企画しました。中学生585人が会場の市総合体育館を訪れました。イベントには、市内の企業や行政、県内の大学など47団体が出展しました。中学生に地域の産業を伝え、将来の就職先や進学先の選択肢の一つにってもらう目的です。

JAは、JAが身近な組織であること、地元の農業の素晴らしさを伝えることを狙いとして出展しました。米に関するクイズを出題したり、スライドを使いJAの事業を紹介したりしました。

総務課の渡辺勝人係長は「地域の農業を知ってもらい、農業やJAのファンになってくれたらうれしい」と話しました。

雪中にんじん出番 品質良好、出荷規格を確認

12月20日(木)、JA越後おぢやのニンジン生産組織「小千谷人参生産組合」は、「雪中にんじん」の品格的な出荷に合わせて目合わせ会をJA千谷野菜集出荷場で開きました。

生産者ら22人が参加し、今年産の出来を確認するとともに、品質や大きさなどの出荷規格を共有しました。

組合では、雪を生かした高付加価値ニンジンの生産・出荷をしています。同組合の国松俊輔組合長は「目合わせ会でしっかりと品質を確認して、良いニンジンを出荷していこう」と呼び掛けました。

県長岡農業普及指導センター小千谷分室の椋澤桃子主査普及指導員は今年産の出来を「夏の猛暑やゲリラ豪雨、乾燥で発芽率が低下して肥大化が進み、収穫が早まったが品質は良好だ」と話しました。また、保管中の凍み対策も説明しました。

「雪中にんじん」の出荷は3月上旬まで続き、出荷量は140tを予定しています。



▲ニンジンの出荷規格を確認する生産者

和泉小学校2年生 珍品ダイコン収穫



▲珍品ダイコンを手に笑顔を見せる和泉小2年生児童

このほど、和泉小学校2年生16人が生活科の学習の一環で育てたダイコンに珍品が出来ました。

珍品は3本に分かれたダイコンと2本足のダイコンです。児童はそれぞれに、「筋肉ダイコン」とテレビ

ゲームのキャラクター「フワッティ」と名付けました。

児童は、地域の生産者の協力を得て、種まきから収穫までを体験しました。

野菜づくりを振り返り、「種をまく間隔が難しかった」「大きいダイコンで運ぶのが大変だった」「たわしを使って洗うのが楽しかった」と話してくれました。

収穫したダイコンは、給食で「秋野菜カレー」や「具だくさん汁」にして食べたり、保護者にプレゼントしたりしました。

児童は野菜づくりを通して、生産の楽しさや収穫の喜びを学びました。

健康情報ひろば



「ぬり薬」正しく使えていますか？

J A新潟厚生連
小千谷総合病院

薬剤部長 佐藤 宏

市販の薬を含め、保湿剤やかゆみ止めなどのぬり薬を使用する機会もあるかと思えます。今回は、「ぬり薬」について使用方法等についてお話します。

〈ぬり方について〉

まず、指先をきれいに洗いましょう。それから、患部の範囲に応じた量をとってぬってください。チューブから直接患部にぬらないようにして薬を清潔に保ちましょう。

〈水虫の薬について〉

症状がある部分より広めにぬりましょう。また、症状がおさまっても菌が残っている場合もあるため指示があるまで使用を続けることも大切です。

〈ぬる量について〉

ぬる量が少なすぎても効果が期待できません。ワンプインガーティップユニットという塗り方があります。これは口径5mmのチューブから人差し指の先端から第一関節までチューブか

ら絞り出した量が約0.5g（1円玉大）で、この量を大人の手のひら2つ分くらいが適量というぬり方です。

〈ぬる場所について〉

ステロイド外用薬という薬は、種類により強さの違いがあり、部位（頭皮、顔面、腕など）によっても吸収率が異なります。例えば、腕に対して顔では10倍以上吸収量が多くなるともいわれています。指示された薬の種類とぬる部位を守って使用しましょう。ちなみにステロイド外用薬は、全身の副作用が問題になることはほとんどありません。

〈混合する理由は？〉

病院では、数種類のぬり薬が別々に出る場合と混ぜる場合があります。どちらがいいということはありませんが、混合することでステロイド剤を薄めて強さや副作用も軽くしているわけではありません。乾燥を防ぎ、一度にぬれるので手間が減り、ぬり伸ばししやすいなどの理由があります。

〈保管に注意〉

夏に車内に放置してしまった薬は、一度溶けたら冷やした後硬くなっても、同じ効果が得られない場合があるので使用しないようにしましょう。

以上、指示に従って正しくご使用ください。ご不明な点は、薬剤部まで問い合わせください。